

今年は、明治元(1868)年から満150年目に当たり、各地で記念イベントが行われるところもあります。

9月27日に中台区(匝瑳地区)の史跡「脱走塚(水戸藩士の墓)」で計画されている慰霊法要もその記念行事です。

脱走塚は、明治元年10月6日(新暦では11月19日)中台村で水戸藩内の最後の対立抗争があり、そのときの戦死者を埋葬したものです。諸生党・市川勢が水戸藩の脱走兵

とみなされ、「二十五人之墓」が建てられた翌2年5月ごろから脱走塚と呼ばれ始めました。中台の人たちの慰霊法要もこの時始まったのでしょう。節目となる慰霊法要は、

21回忌の明治22(1889)年5月、吊魂碑(ちまごころい)が建てられた大正15(1926)年11月、そして昭和41(1966)10月に百年祭が催されました。

故大川逞一先生、故布施章・元八日市場市長とともに同54(1979)年8月に故和田祐之介・

元水戸市長を脱走塚に案内した経験が筆者にあります。ほどなく、水戸市議会代表者の視察や明治120年目の昭和63(1988)年の水戸「仰天会」による慰霊法要、そして平成20(2008)年10月には「140年記念法要」がありました。

明治、大正時代から「松山戦争」と呼ばれてきたこの戦いが、調査を進めると「八日市場・中台の戦い」がふさわしく、「脱走塚」の名称にも「水戸藩士の墓」と加えられました。

今年も8月16日、脱走塚に中台・龍性院の寺院員により「水戸藩廿六勇士」の供養塔婆があげられました。中台区民による慰霊も150年目を迎えることになりました。

供養塔婆



(市文化財審議会
委員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴

班 ☎ 73・0080